# 図書館との複合化の例

## 宮城県

学校事例

### 山田市立下山田小学校

一般開放に対応した学校図書館

本校は、平成６年度に山田市が策定したまちづくり計画の指針の中で、下山田地区の新たなコミュニティ拠点として位置づけられ、地域住民の要望を取り入れながらコンペにより設計者を選定し、改築を行った。このような経緯から本校は地域の文化拠点施設として位置づけられており、ホール・アリーナ・図書館・コンピュータルーム等の文化施設が市民に対して開放されている。

図書館はコンピュータ室と隣接しており、学校ゾーンと開放ゾーンの接点である中心部に位置し、玄関から直接入れるようになっている。図書館内部は吹き抜けの空間を持ち、床に段差を設けて腰掛けて読書等ができるようになっており、子どもたちが自然に集まる場所になっている。

図書館とコンピュータルームは休日も含め 11:00 から 19:00 まで一般開放されており、専任の司書を配置して管理を行い、学校側へ負担がかからない体制となっている。図書室内にはインターネット利用可能なパソコンも設置され、誰でも自由に利用することができる。コンピュータルームは、授業後の近隣の中高生も訪れて利用されている。なお、開放部分と学校部分は分けられており、授業に支障が出たり、休日に教室に立ち入ったりしないように配慮されている。

●配置図

●図書館吹き抜けスペース

●図書館部分平面図

児童数：約180名
図書館部分面積：約290㎡
蔵書数：約5,000冊（小学校用図書）
約450冊（一般開放用図書）

## 千葉県

学校事例

### 市川市立福栄小学校

市民図書室を併設した学校図書館

本校では昭和６０年の学校創立以来、市民図書室が学校図書館に併設されている。また図書館活動においては学校図書館には司書が配置されているほか、市民図書館においてはボランティアが組織され、児童向け、市民向けの読書活動を行っている。また、市川市の図書室ネットワーク事業にも参加しており、他校や公立図書館との図書資料の貸借も行っている。

●図書館平面図

【市民図書室との併設】

市民図書室は専用の玄関を持っているが、学校図書館と隣接し、自由に行き来できるようになっており、児童が市民図書室を自由に利用できる。２つの図書館が常に開館していることから、授業などで調べる必要性が生じたときに即時に図書館を利用することができ、複数クラスの同時利用も可能である。また、文学作品は市民図書室で購入してもらい、学校図書館では主に調べる学習に関する図書資料を購入しており、図書の有効活用も図られている。

●図書館内部

【市民図書室のボランティア組織】

市民図書室ではボランティアの積極的な奉仕活動によって、蔵書・装備・配架・廃棄等の蔵書に関する作業と貸出・返却の世話、可能な限りのレファレンスが行われている。ボランティア会員は児童の保護者約１６０名で構成され、年間を通じて活動している。また、ボランティア会員のサークル活動として「読み聞かせ」「読書会」「夢ふうせん（子どもの本を読む会）」の３つがあり、子どもたちを本に親しませると同時に、会員自身の教養を深める活動にもなっている。

児童数：約420人
図書館部分面積：約110㎡（学校図書館）　約150㎡（市民図書室）
蔵書数：約9,400冊（学校図書館）　約12,000冊（市民図書室）

出典：「新しい時代に対応した学校図書館の施設・環境づくり」（文部科学省）